テンタ君だより NO.2

長田商業高等学校
5月8日　発行

木々の葉の緑が色を増して、日差しに照らされ、鮮やかに輝いています。５月に入って、学校の近くの高取山を見上げると、山藤の紫色が山を覆っている緑色にアクセントをきかせ、季節が春から初夏へと移ってきたのかなと感じます。

新年度がスタートして１か月が経ち、新入生のみなさんも、定時制独特の学校生活にも少しずつ慣れてきたようにも思います。

今までになかった１０連休が終わりました。学校はようやく本来の時間割で進んでいきます。

生徒のみなさんは、４月から連休にかけての疲れで体調などが崩れやすくなっている可能性もあるので、くれぐれも無理をせず、ゆっくりとペースをあげていきましょう。

元号が変わった・・・

５月１日に元号が、「平成」から「令和」に変わりました。前回の改元は、年が明けて、昭和６４年になって間もない１月７日でした。

その時の私は、大学を卒業した直後でした。教員になりたい気持ちにあふれて、京都の定時制の高校で講師をさせてもらっていました。

定時制高校という体験したことのない学校での勤務に昭和６３年の４月に校門をくぐったときは、ドキドキして不安でいっぱいのスタートでした。

年齢が私とほとんど変わらない生徒を前にして、最初の授業の様子は、今も鮮やかに覚えています。「若い奴が前で何かしゃべってんな」などと思い、私の話を聞いてくれる生徒は、ほとんどおらず、クラスメートと職場のことや、芸能のことなどを楽しそうに話していました。

「最初からうまいこといかへんよ」と先輩の先生に慰めてもらいましたが、それからも緊張ばかりで、おもしろい授業などできず、生徒たちはしゃべりながらたまにノートを写すという授業が続きました。

先輩や同僚の先生たちにアドバイスをもらい、どうにか学校に慣れてきた秋に、当時の天皇陛下のご体調がすぐれないというニュースがありました。

その後は日本全体が、何となく重いムードに包まれました。

そして天皇陛下が崩御され、元号は「平成」に変わりました。ズッコケや失敗の連続だった私の定時制高校での講師生活は、「昭和」から「平成」なった３月で終わりました。

その時の生徒たちに、お別れのときにもらった温かいメッセージは、大切な財産になりました。卒業式に呼んでもらい、胸がいっぱいになって、生徒たち以上に涙したことは、少し恥ずかしい思い出です。

いま縁があって、同じ定時制の長田商業高校で仕事をしながら新しい「令和」の時代を迎えました。

元号が「平成」に改元されたときの思い出を少し書かせてもらいました。　（高木　健作）

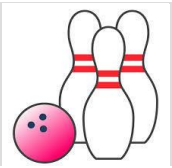
球技大会があります

５月１０日（金）に恒例になっている球技大会がおこなわれます。種目はボウリングです。

この球技大会は、本科と専修の生徒が一緒になっておこなう数少ない行事です。

今年の会場は、学校から少し離れているラウンドワン新開地店です。生徒のみなさんは、担任の先生などからの連絡をよく聞いて、開始時間に遅れずに来てください。

なお、試合の模様など詳しくは、ホームページでお知らせする予定にしています。



中間テスト

５月２７日（月）から中間テストが始まります。授業の回数は多くないので、中間テストの範囲は、かなり狭くてよい点数を取れるチャンスです。

特に就職や進学を視野に入れている３・４年生にとっては、成績はとても大事になります。

進路のことを考えながら、自分のベストを尽くすことができるようにしましょう。

１年生のみなさんも、長商に来て初めての教科もあるので、範囲をしっかりと聞いて、テスト勉強などに取りかかりましょう。

ただし、２９日（水）は、創立記念日で学校は休みなので、テスト最終日は３１日（金）になります。